

各事業会社の環境目標

事業会社ごとの2009年度までの3か年目標／2007年度目標と実績および2008年度目標

	課題※1	2007～2009年度目標	2007年度目標	2007年度実績	2008年度目標
 ニチレイフーズ	廃棄物削減	直営・子会社全工場でのごみゼロ達成	現状維持(9事業所)	現状維持	現状維持
		生産トン当たりの排出量※2を2005年度比20%削減	2005年度比10%削減	2005年度比15%削減	2005年度比18%削減
	地球温暖化防止	生産トン当たりのCO ₂ 排出量を1999年度比15%削減	1999年度比13%削減	1999年度比9%削減	1999年度比14%削減
		商品輸送時のエネルギー使用量原単位(kℓ/百万トンキロ)を2006年度比5%削減	2006年度比2%削減	2006年度比3%削減	2006年度比4%削減
環境配慮商品	売上高当たりのプラスチック容器包装重量の削減(対象:家庭用商品)	2004年度比1%削減	2004年度比6%削減	現状維持	
 ニチレイフレッシュ	廃棄物削減	全廃棄物再資源化の仕組み構築	未達成事業所の委託先見直し	最終処分廃棄物量は2006年度比で39%削減	廃棄物再資源化95%
	地球温暖化防止	生産トン当たりのCO ₂ 排出量を1999年度比15%削減	対策の立案、実施	1999年度比15.2%削減(ボイラー入替え等実施)	現状を維持
	環境配慮商品	養殖時の薬剤使用を低減したえびの取扱い拡大 養殖えびに占める売上比率60%	売上比率55%	売上比率42.7%	売上比率55%
		FAチキン、オーガニックチキンの取扱い拡大 年間取扱量4,000トン	年間取扱量3,500トン	年間取扱量3,750トン	年間取扱量3,900トン
		新たなFA商品の開発推進	フェロー産の養殖鮭の取り組み	現地調査、研究を開始	継続
		MSC漁業認証取得商品への取り組み	漁業認証、COC認証の可能性検討	具体的実施に向け検討開始	継続
バイオマス発電を利用した養鶏事業への取り組み	日産3,000羽の生産	バイオマス発電は断念	鶏ふんの肥料化(年間80万羽)		
 ニチレイ ロンググループ本社	廃棄物削減	最終処分廃棄物量を1999年度比97%削減	1999年度比90%削減	1999年度比91%削減	1999年度比94%削減
	地球温暖化防止	エネルギー使用量原単位を2005年度比4%削減(対象:エネルギー管理指定工場)	2005年度比2%削減	5センターで達成(対象15センター)	2005年度比3%削減
		受託物流におけるCO ₂ 排出量原単位を2006年度比3%削減	2006年度比1%削減	2006年度比24%増加	2006年度比2%削減
		グリーン経営認証を推進し、協力会社で認証取得	40以上の協力会社で取得	34社で取得	40以上の協力会社で取得
	環境配慮商品	●物流共同化などにより環境負荷を低減する事業を推進 ●営業提案時に環境配慮のための評価を実施(CO ₂ 排出削減量など)	目標値は未設定	●駅ビルへの共同配送を開始 ●冷食共配における環境配慮に対する評価を実施	グループ会社ごとに目標設定
オフィス	社有車へのエコ車両採用を推進、事務所の省エネルギー・グリーン購入推進	目標値は未設定	エコ車両比率が2006年度比14ポイントアップ	グループ会社ごとに目標設定	
 ニチレイ バイオサイエンス	廃棄物削減	廃棄物再資源化率95%(開発センター)	廃棄物再資源化率90%	廃棄物再資源化率97.8%	廃棄物再資源化率98%
	地球温暖化防止	売上高当たりのCO ₂ 排出量を2004年度比2%削減(開発センター)	省エネ管理手法取得	電力使用量の個別監視・測定仕組み構築 エコ委員会の開催(9回/10ヵ月)	2004年度比1%削減 エコ委員会の開催(10回/年以上)
	環境配慮商品	紙製ラベル導入率50%以上	導入率5%以上	導入率5.9%	導入率40%以上
 ニチレイプロセーヴ	廃棄物削減	コピー用紙使用量削減 一人当たりの年間使用量7,000枚以下	9,000枚/人以下	8,520枚/人	8,000枚/人以下
	地球温暖化防止	本社電力使用量を2005年度比15%削減(照明・コンセント)	2005年度比11%削減	2005年度比10%削減	2005年度比13%削減
	従業員環境意識向上と社会貢献活動の推進	●環境教育および社会貢献活動への参加 ●社会貢献活動への参加 (2009年度参加率100%)	●環境教育参加率100%(本社) ●社会貢献参加率20%	●社会環境報告書を基に説明会実施(参加率87%) ●東京都グリーンシップアクション参加 ●エコキャップ運動実施	左記活動の継続 追加活動の実施

※1 課題詳細 廃棄物削減: 廃棄物削減と再資源化 環境配慮商品: 環境に配慮した商品・サービスの提供 オフィス: オフィスにおける環境保全の取り組み
 ※2 ここでの排出量: 有償リサイクル量④最終処分廃棄物量(P27、P32)における事業所外排出量とは異なる

その他 ①昨年度掲載したグリーン購入の推進に係る数値目標については偽装問題に伴い、目標値は未設定とし検討中
 ②ニチレイプロセーヴは機構改正に伴うISO9001取得維持の活動継続により14001取得の時期を再検討
 ③上記以外のグループ2010年度目標についても事業活動に沿って継続的に取り組み実施